

あらのしゅう いんがい

#19 曠野集 (員外)

作者：山本荷兮 (やまもと・かけい 1648-1716)

刊行：元禄2年 (1689)



📖 解題

■ 内容

『曠野集 員外』は蕉門俳書の俳諧七部集の『阿羅野』3冊のうち1冊である。「員外」とは集外に添えた余興の意味である。当館で所蔵しているのは半紙本、題簽には「安ら能」、内題は「曠野集 員外」。刊記は「京寺町通二条上ル町井筒屋 筒井庄兵衛板」。



[911. 32/29]

構成は、素堂・野水・荷兮・越人の歌仙、亀洞・荷兮・昌碧・野水・舟泉・釣雪の歌仙、舟泉・松芳・冬文・荷兮の歌仙、荷兮・野水の歌仙、山崎宗鑑・越人・傘下の歌仙、越人・芭蕉の歌仙、其角・越人の歌仙、嵐雪・越人の半歌仙、野水・落梧の歌仙、一井・鼠弾・胡及・長虹の歌仙からなる。(歌仙とは連歌・俳諧で長句と短句を交互に36句連ねたものをいう。18句で1巻とするものは半歌仙。)

なお、嵐雪・越人の歌仙が半歌仙になった経緯については、越人著「猪の早太」のなかで「先にあら野撰集の時、嵐雪・越人両吟の歌仙後の一折翁の心に應ぜざるところありと削捨て、たゞ一折をあらはし給へり」と書かれている。

■ 作者

作者は山本荷兮。本名山本武右衛門周知。名古屋生まれの医者。名古屋蕉門の中心。蕉門七部集の『阿羅野』に先立つ『冬の日』(1685)、『春の日』

(1686) を刊行。さらに『安羅野後集』(1693)、『ひるねの種』(1694)、『橋守』(1703) 等を刊行した。

板元は井筒屋庄兵衛(初代)。本名は筒井重勝といい、京都の俳諧専門の書肆である。『阿羅野』以外にも七部集の『ひさご』(1690)、『猿蓑』(1691)をはじめとして、多くの蕉門の俳書を刊行している。

📖 本文を読む

< 翻刻 >

「曠野集 員外」(『日本俳書大系』第2巻 日本俳書大系刊行会 1926)
[911.308/1/2]

「曠野集 員外」(『俳文学大系』9 大鳳閣書房 1929) [914.5/16/9]

「曠野集 員外」(『俳諧七部大集』大文館書店 1934) [911.33/129]

「曠野集 員外」萩原蘿月校訂(『俳諧七部集 上(日本古典全書)』朝日新聞社 1957) [911.32/14/1]

「曠野集 員外」阿部喜三男校注(『蕉門俳諧集1(古典俳文学大系6)』創美社 1972) [911.308/11/6]

「曠野集 員外」萩原蘿月校訂(『俳諧七部集 上 増補版(日本古典全書)』朝日新聞社 1974) [911.32/14A/1]

「曠野集・員外」中村俊定校注(『芭蕉七部集』岩波書店 1977<岩波文庫>)
[911/7]

「曠野集・員外」上野洋三校注(『新日本古典文学大系70 芭蕉七部集』岩波書店 1990) [918/20/70]

「曠野集 員外」中村俊定校注(『芭蕉七部集』岩波書店 1991) [911.32AA/213]

📖 参考文献

越人「猪の早太」(『古俳書文庫』第14篇 天青堂編集部校訂 天青堂 1925)
[911.308/9/14]

大儀義雄「山本荷兮」(『俳句講座2 俳人評伝 上』明治書院 1958)
[911.308/6/2]

第3章 文芸

乾裕幸「『阿羅野』の時代」(『日本文学研究資料叢書 53 芭蕉Ⅱ』日本文学研究資料刊行会編 有精堂出版 1977) [910.8G/18/53]

田中善信「選集論6 曠野」(『芭蕉講座 第3巻 文学の周辺』芭蕉講座編集部編 有精堂出版 1983) [911.32P/108/3]

雲英末雄「俳諧書肆の誕生—初代井筒屋庄兵衛を中心に—」(『元禄京都俳壇研究』雲英末雄著 勉誠社 1985) [911.33S/28]

白石悌三「七部集の成立と評価」(『新日本古典文学大系 70 芭蕉七部集』岩波書店 1990) [918/20/70]